

カンボジア王国を訪ねて

松尾 英夫

★二〇一二年三月十八日より二十二日まで、私にとっては、四度目のカンボジア王国訪問でした。

一九二七年アメリカと日本との人形交流会で、ミス長崎として市松人形の「タマ子」が送られました。

二〇〇三年、その「タマ子」がアメリカで生きていることがわかり、里帰り展を開催しました。長崎県下の四ヶ所で「里帰り展」が開かれ、約五万人の方々が入場されました。その際皆様から頂いた寄付金が少し残りまして、そのお金を有意義に活用するにはと検討した時、カンボジアの小学校では雨もりがひどく、三部授業をしている事などがわかって、新しく学校を造る援助することに決まりました。こうして「タマコ・スクール」の名前がついた小学校が完成したのです。

私たちは此の時、長崎親善人形の会(タマコの会)を作り、今後とも交流を深めて行こうとその小学校を訪問することになりました。その際、子供たちとワークショップを開くことにしました。

★ワークショップとプレゼント



タマコスクールワークショップ

今回、四年生、五年生、六年生計二一〇名が参加するワークショップを実施しました。今回はピカソの作品「ゲルニカ」と同じ寸法、たて三・五m、よこ七・八mの巨大なキャンバスを二枚持って行き、平和のメッセージを描いてもらいました。第一グループは「美しいお花畑を描きましょう。」をテーマにキャンバスいっぱい沢山の花を描き、第二グループは「楽しさを体を使って表現しましょう。」をテーマに、キャンバスに寝ころんだ人をあて描きしたり、手形

更にびわ湖の三倍もあるトンレサップ湖の遊覧もありました。この湖には約一万人近い水上生活者が生活しています。私には初めての見学だったので驚きの連続でした。ここでの淡水魚の漁獲高及び種類は世界一と言われています。しかし、水は濁り、臭いもあります。家は竹の上に浮いています。最近、大きな学校が出来、子供たちは舟で通学しているとのことでした。



トンレサップ湖 水上生活者

しかし、水上生活者はいろいろ大変だろうと感じたことがありました。私達が水上のお店に行き、そこに上がったのですが、生きたへびを首に巻いた子供が近づいて来たので写真を撮ろうとしたら、「ドルを」と言われたし、若い女の人が赤んぼうを抱いて近づき「ドルを」と手を出してきました。遊覧船の中にも小学生らしい子供が二人いて船の仕事をしていたのですが、途中からお客さんの肩をたたきはじめました。断つても、断つても止めようとしません。この行為もドル(お金を稼ぐためでした)。

反面、遊覧船の発着場は非常に広びろとしていましたが、今も拡大のための工事が行われていました。観光客が増加し、出入りする船も沢山ありました。これらは観光事業が発展しているのだと思えました。

街は四十二階建のビルが出来たり、自動車の台数も増加していました。又、今回初めて知ったのですが、美術大学があり、そのまわりには画材店が並んでいました。学校の先生の月収は前回三十ドルと言われていたのに、今回は六十ドルとの説明がありました。それだけ生活水準も上がったのでしよう。又観光地シエムリアップでは、ホテル建設が盛んに進んでいました。

このようにカンボジアはすごいスピードで発展していると感じましたが、私は更に此の国の国民全体の生活がもっと良くなることを願っています。

風信

(長崎親善人形の会)

○五月一日は八十八夜と記し、旧暦では三月十一日とあった。この日は今年二月三日の節分の翌四日「立春」より数えて八十八日になり「野にも山にも若葉が繁る」とあり、その八十八夜に摘んだ「お茶」を飲むと幸福が来るという。

をつけたり、伸び伸びと自分達の姿を描きました。子供達は楽しそうに時間のたつのも忘れ、絵を描くのに集中し二枚の作品が完成しました。この作品は、長崎に送ってもらってから、「キッズゲルニカ国際プロジェクト」を通じ、カンボジアの子供達の平和のメッセージとして世界をまわります。

もう一つの目的は生徒へのプレゼントを持って行くことです。前回訪問した時、校長先生に今何がほしいのかおたずねしたところ「一番ほしいのはえんぴつとノートです。」とのことだったので、日見中学校に相談したところ快く取りくんでいただき、其の上、他校への呼びかけもしてもらい、えんぴつやノートなど沢山集めていただきました。総重量約百五〇kgにもなるプレゼントを持って行きました。ワークショップが終わって生徒たちが帰る時、一人一人に手渡しました。生徒たちは大変喜んでくれました。日見中学校をはじめ、取り組んでいただいた学校に心より感謝申し上げます。

★今 カンボジアの学校は

カンボジアのタマコ・スクールは国立とのことでしたが、運動場はありません。体育、音楽、図工などの授業もありません。又、トイレ、水道も不十分です。それに今でもカンボジアの子供達は一家の重要な働き手となつていきますので学校に行きたくても行けない子供が大勢いるのです。

★カンボジア王国の今

首都プノンペンでの観光は、まずは王宮、市場、そして国民を四年間で二〇〇万人も殺したポル・ポト時代に刑務所として使用されていた「トゥールスレン博物館」。そして次は、観光地シエムリアップへ移動し城壁に囲まれたアンコール二大遺跡、アンコール・ワットとアンコール・トム、樹木が建物を覆うように繁茂している、タ・プロームを見学。またオールド・マーケットでは買い物などを楽しむことが出来ました。

○昔の暦法(旧暦)によると、夏は立夏に始まると記してある。今年の立夏は五月五日で、旧暦では閏三月十五日とある。

○現在は五月五日を「こどもの日(男子の節句)」としているが、昔は旧五月五日を「端午の節句」として各種の行事を行っていた。長崎でも此の日を祝って軒先に菖蒲をさし、ペーロン、セイランエ等と町をあげての賑やかな行事があり、唐アケ粽、ふつ餅、干河豚と昆布の煮しめ、露の味噌汁、のうその湯引等を用意し客をもてなしている。

○その旧五月五日(男節句)は、現在の六月二十四日となる。昔の記録をみると男の節句は梅雨あけに来ると記してある。たしかに今年の梅雨入りは六月十日とある。また夏は諸病流行する故に、夏に入ると夏越しの祭、鮎の神事、川祭、井戸祭り、水神祭り等と悪疫退散の行事記録が多い。

○五月は二つの素晴らしい展覧会を見ることができた。

一つは長崎県美術館(長崎市出島)で開催されている「ジュディ・オング木版画展」で、其処には畳一枚程もある大きな版画に、如何にも私達が其の場に置かれていような感覚にさせられる建物・風物が現出されていた。そして其の全ての絵の中には、人物が一人も居ないので私其の建物の中に引き込まれたようで、暫くは立ち去る事ができなかった。(五月二十七日まで)今一つの展覧会は長崎市歴史文化博物館(長崎市立山)開催の「ゾウが来た」と題する象に関する各種資料の展覧会である。長崎で我が国に明治以前に舶載された象の資料を集めた展示が開催されたのは初めてである。今回の展覧会で私達が大いに感激したのは、長崎では原物を見る事は不可能であるとされてきた有名な、伊藤若冲の「象と鯨図」六曲一雙屏風と長沢芦雪の「着色 象と唐子図」六曲一雙屏風を実見できたのに驚いたし感激した。また今回発刊された象の図録は大いに参考になるすばらしい物であった。(六月十日まで)

○今月は次の資料を拝受した。

『ギリシタン墓碑の調査』長崎純心大学が平成二十年より二十三年にかけ国科学研究費の助成を受け発刊されたもので、後世に残る資料の一つである。

(長崎純心大学片岡研究室発行)

『西日本文化(No.456)』檀一雄の生誕百年として「食の旅人(深野治)や」鑄物師磯野五兵衛(清水孝子)「田畑を潤す先人の知恵(徳永哲也)等参考になるものが多かった。(西日本文化協会刊)

長崎歴史文化協会 研究室

TEL 八二二一五四〇〇
十八銀行公会堂前出張所 二F

